



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(本校)D-5号ターミナル施設等整備工事(管理棟)	階数	地上5F
建設地	横浜市中区本牧心頭1-16番地他	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	300 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2023年06月01日
敷地面積	2,995 m ²	作成者	河崎 猛士
建築面積	809 m ²	確認日	2023年06月06日
延床面積	3,869 m ²	確認者	人見 伸也

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★☆☆☆☆☆

S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★★ B: ★★★★★★ C: ★★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 71% (98 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 71% (98 kg-CO₂/年・m²)

④上記+ 71% (98 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.4

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.3

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。	特になし。	
Q1 室内環境 開口部遮音性能:T-2以上。 照度が500lx以上1000lx未満。 建築物衛生法を満たす換気量の1.4倍となっている。	Q2 サービス性能 事務室の天井高2.7m以上 給水SUS(C)、給湯SUS(C)、排水VP(B)を使用。 階高:3.9m以上。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー BPI _m =0.70。 BEI _m =0.60。	LR2 資源・マテリアル LGSとOAフロアを使用している。 ODP=0、GWP=1の発泡剤を用いた断熱材を採用。	LR3 敷地外環境 燃焼機器を使用していない。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい



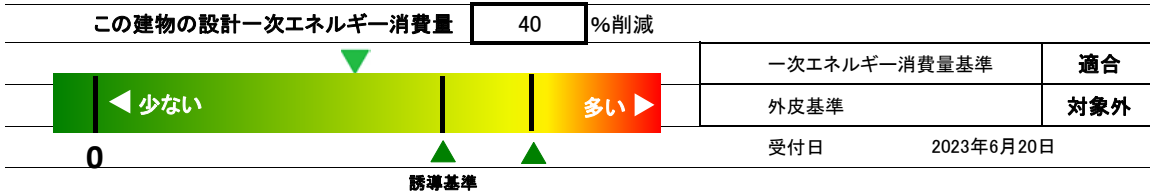
4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 (本牧)D-5号ターミナル施設等整備工事(管理棟)

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 5

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

- ①BPIm=0.70。
- ③BEIm=0.60。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 3

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

- ⑩照度が500lx以上1000lx未満。
- ⑪JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。建築物衛生法を満たす換気量の1.4倍となっている。

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

- ⑫事務室の天井高2.7m以上
- ⑬リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

- ⑰給水SUS(C)、給湯SUS(C)、排水VP(B)を使用。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 1

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入	環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)
エネルギーマネジメントシステム導入	

CASBEE[®] 横浜 | 評価結果 | 5-030



CASBEE横浜2022年版v.1.0
 (本校)D-5号ターミナル施設等整備工事(管理棟)

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.0

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
		Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境										2.8
1 音環境				3.6	0.15	-	-	-	-	3.6
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-	-	-	-
1.2 遮音				4.2	0.40	-	-	-	-	-
	1 開口部遮音性能			5.0	0.60	-	-	-	-	-
	2 界壁遮音性能			3.0	0.40	-	-	-	-	-
	3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	-	-	-
	4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	-	-	-
1.3 吸音				4.0	0.20	-	-	-	-	-
2 温熱環境				1.8	0.35	-	-	-	-	1.8
2.1 室温制御				2.6	0.50	-	-	-	-	-
	1 室温	快適・働きやすさ	健康・安心	2.0	0.38	-	-	-	-	-
	2 外皮性能	快適・働きやすさ	健康・安心	3.0	0.25	-	-	-	-	-
	3 ソーン別制御性	快適・働きやすさ		3.0	0.38	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		快適・働きやすさ		1.0	0.20	-	-	-	-	-
2.3 空調方式		快適・働きやすさ		1.0	0.30	-	-	-	-	-
3 光・視環境				2.9	0.25	-	-	-	-	2.9
3.1 屋光利用				2.4	0.30	-	-	-	-	-
	1 屋光率	快適・働きやすさ		2.0	0.60	-	-	-	-	-
	2 方位別開口	快適・働きやすさ		-	-	-	-	-	-	-
	3 屋光利用設備	快適・働きやすさ		3.0	0.40	-	-	-	-	-
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-	-	-	-
	1 屋光制御	快適・働きやすさ		3.0	1.00	-	-	-	-	-
3.3 照度		快適・働きやすさ		4.0	0.15	-	-	-	-	-
3.4 照明制御		快適・働きやすさ		3.0	0.25	-	-	-	-	-
4 空気質環境				3.5	0.25	-	-	-	-	3.5
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-	-	-	-
	1 化学汚染物質	快適・働きやすさ		4.0	1.00	-	-	-	-	-
4.2 換気				3.6	0.30	-	-	-	-	-
	1 換気量	快適・働きやすさ		5.0	0.33	-	-	-	-	-
	2 自然換気性能	快適・働きやすさ		3.0	0.33	-	-	-	-	-
	3 取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ		3.0	0.33	-	-	-	-	-
4.3 運用管理				2.0	0.20	-	-	-	-	-
	1 CO ₂ の監視	快適・働きやすさ		3.0	0.50	-	-	-	-	-
	2 喫煙の制御	快適・働きやすさ		1.0	0.50	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	-	-	3.0
1 機能性				2.8	0.40	-	-	-	-	2.8
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-	-	-	-
	1 広さ・収納性	快適・働きやすさ		3.0	0.33	-	-	-	-	-
	2 高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ		3.0	0.33	-	-	-	-	-
	3 バリアフリー計画	快適・働きやすさ		3.0	0.33	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	-	-	-	-	-
	1 広さ感・景観	快適・働きやすさ		4.0	0.33	-	-	-	-	-
	2 リフレッシュスペース	快適・働きやすさ		4.0	0.33	-	-	-	-	-
	3 内装計画	快適・働きやすさ		1.0	0.33	-	-	-	-	-
1.3 維持管理				2.5	0.30	-	-	-	-	-
	1 維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ		3.0	0.50	-	-	-	-	-
	2 維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ		2.0	0.50	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性				2.8	0.30	-	-	-	-	2.8
2.1 耐震・免震				3.0	0.50	-	-	-	-	-
	1 耐震性	防災		3.0	0.80	-	-	-	-	-
	2 免震・制振性能	防災		3.0	0.20	-	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-	-	-	-	-
	1 躯体材料の耐用年数	防災		3.0	0.20	-	-	-	-	-
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災		2.0	0.20	-	-	-	-	-
	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災		3.0	0.10	-	-	-	-	-
	4 空調換気ダクトの更新必要間隔	防災		3.0	0.10	-	-	-	-	-
	5 空調・給排水配管の更新必要間隔	防災		4.0	0.20	-	-	-	-	-
	6 主要設備機器の更新必要間隔	防災		3.0	0.20	-	-	-	-	-
2.4 信頼性				2.4	0.20	-	-	-	-	-
	1 空調・換気設備	防災		3.0	0.20	-	-	-	-	-
	2 給排水・衛生設備	防災		1.0	0.20	-	-	-	-	-
	3 電気設備	防災		3.0	0.20	-	-	-	-	-
	4 機械・配管支持方法	防災		3.0	0.20	-	-	-	-	-
	5 通信・情報設備	防災		2.0	0.20	-	-	-	-	-
3 対応性・更新性				3.4	0.30	-	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり				4.6	0.30	-	-	-	-	-
	1 階高のゆとり			5.0	0.60	-	-	-	-	-
	2 空間の形状・自由さ			4.0	0.40	-	-	-	-	-
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	-	-	-	-	-
3.3 設備の更新性				3.0	0.40	-	-	-	-	-
	1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	-	-	-
	2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	-	-	-
	3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	-	-	-
	4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	-	-	-
	5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	-	-	-



CASBEE横浜2022年版v.1.0
 (本校)D-5号ターミナル施設等整備工事(管理棟)

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.0

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	評価点	重み係数	評価点	重み係数	重点項目		
						<非住宅>	<集合住宅>	
6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	-	-	-
Q3	室外環境(敷地内)	-	0.30	-	-	-	-	1.3
1	生物環境の保全と創出	1.0	0.30	-	-	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	1.0	0.40	-	-	-	-	1.0
3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.30	-	-	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	1.0	0.50	-	-	-	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	-	-	-
LR	建築物の環境負荷低減性	-	-	-	-	-	-	3.7
LR1	エネルギー	-	0.40	-	-	-	-	4.4
1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.20	-	-	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	5.0	0.50	-	-	-	-	5.0
4	効率的運用	3.0	0.20	-	-	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価	3.0	1.00	-	-	-	-	-
4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制	3.0	0.50	-	-	-	-	-
	集合住宅の評価	-	-	-	-	-	-	-
4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	-	-
LR2	資源・マテリアル	-	0.30	-	-	-	-	3.3
1	水資源保護	3.0	0.20	-	-	-	-	3.0
1.1	節水	3.0	0.40	-	-	-	-	-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用	3.0	0.60	-	-	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	-	-	-
2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.60	-	-	-	-	3.3
2.1	材料使用量の削減	2.0	0.11	-	-	-	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.22	-	-	-	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.22	-	-	-	-	-
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.22	-	-	-	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	5.0	0.22	-	-	-	-	-
3	汚染物質含有材料の使用回避	3.7	0.20	-	-	-	-	3.7
3.1	有害物質を含まない材料の使用	3.0	0.30	-	-	-	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避	4.0	0.70	-	-	-	-	-
1	消火剤	-	-	-	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)	5.0	0.50	-	-	-	-	-
3	冷媒	3.0	0.50	-	-	-	-	-
LR3	敷地外環境	-	0.30	-	-	-	-	3.3
1	地球温暖化への配慮	4.1	0.33	-	-	-	-	4.1
2	地域環境への配慮	3.2	0.33	-	-	-	-	3.2
2.1	大気汚染防止	5.0	0.25	-	-	-	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.50	-	-	-	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制	2.0	0.25	-	-	-	-	-
1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	-	-	-
3	交通負荷抑制	1.0	0.25	-	-	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制	1.0	0.25	-	-	-	-	-
3	周辺環境への配慮	2.7	0.33	-	-	-	-	2.7
3.1	騒音・振動・悪臭の防止	3.0	0.40	-	-	-	-	-
1	騒音	3.0	1.00	-	-	-	-	-
2	振動	-	-	-	-	-	-	-
3	悪臭	-	-	-	-	-	-	-
3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制	3.0	0.40	-	-	-	-	-
1	風害の抑制	3.0	0.70	-	-	-	-	-
2	砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-
3	日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	-	-	-
3.3	光害の抑制	1.6	0.20	-	-	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	1.0	0.70	-	-	-	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	-	-	-
上記以外の重点項目								
<事務用途>								
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ		⑬知的生産性向上への取組	1.0	-	-	-
<住宅用途>								
健康と安心								
1	化学汚染物質の対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-
2	適切な換気計画	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-
3	結露・カビ対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-
4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	⑦防犯対策	-	-	-	-	-